令和６年９月５日

令和５年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校
学校関係者評価委員会・自己点検評価委員会

学校法人 札幌青葉学園 北海道看護専門学校　学校関係者評価委員会は、自己点検評価委員会において作成された令和５年度自己点検評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

記

１．日　時：令和６年７月２９日（月）　午後１４時３０分～午後１６時００分

２．場　所：北海道看護専門学校　３階多目的ラウンジ

３．学校関係者評価委員会委員（敬称略）

＜委員長＞

樋爪　昌之　　樋爪昌之公認会計士事務所　所長

＜委員＞

千田　典子　　医療法人社団研仁会　北海道脳神経外科記念病院　看護部長

市戸　理恵　　医療法人渓和会　江別病院　看護部長

小野　慎之助　社会福祉法人北海道社会事業協会　函館病院　看護師

４．事務局（自己点検評価委員会委員）

田所　亮一	北海道看護専門学校	校長
小松　恵治	同上	統括長
川﨑　恵子	同上	参事
若月　佐知子	同上	教務部長
熊谷　昌恵	同上	教務主任補佐
小倉　藤緒	同上	教務主任補佐
後藤　まふみ	同上	事務長
荻野　健司	同上	学生支援室長・統括長補佐

５．主たる議事次第

１）委員長の選任

２）令和５年度自己点検評価報告書について報告および質疑応答

３）学校関係者評価

６．学校関係者評価委員会評価結果　　別添参照

令和６年度　北海道看護専門学校　学校関係者評価委員会評価

Ⅰ　令和５年度重点目標に対する自己点検・評価

A. 教育活動および教育環境の整備　　評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価(平均)	評価(平均)	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価(平均)	学校関係者評価委員の意見等
（１）新カリキュラムに沿った学修指導の推進	—	2.8	新カリキュラム改定に沿った学修指導が２年目となり、コミュニケーション能力の向上や倫理に基づく看護実践能力を養うことができるような教育課程を編成し実践してきた。令和５年度より看護倫理(２年次前期)が始まり、看護実践の場での倫理的ジレンマについて認知し、看護職としての基本的姿勢や役割についての事例検討などを行うことで、倫理に関する基礎的な知識と、問題解決の方法や考え方を学修することができたと考える。これらは臨床現場で起こる倫理的問題に対応する時に、どのように考えればよいのか、何を大事にするのかなど、状況を整理し解決の方向を探る知識や考え方として活かされていくと考える。	2.8	・看護師となり、患者さんとコミュニケーションを取るのはもちろんですが、学生から社会人となって職場の方々ともコミュニケーションを取るのが難しいと感じることもあります。そのため、コミュニケーション能力を伸ばしていくための指導ももっと行っていけると良いのかなと思います。また、臨床では倫理を問われる場面が多くあります。実際に、病院でも倫理カンファレンスをしたりします。そのため、倫理とは何なのか、なぜ守る必要があるのかなど根底となる部分のところから説明してあげられると良いと思います。また、ケース学習で倫理について学生同士で話し合える場があっても良いのかなと思います。
（２）基礎学力を定着させ、学修への意欲を引き出す(学修習慣の定着)	—	2.2	１年次では、学修方法が分からない学生や学修習慣を身につけていない学生を対象に、週１～２回のペースで放課後の時間を使った少人数学習支援を行った。個別学習を積み重ねていく中で成績が伸びた学生もいたが、学修習慣の定着とまではいかない学生も散見されていた。基本的にはまじめな学生がほとんどだが、学修面だけでなく、看護職者を養成するための基本的な生活、学修習慣への指導も絶やさず実施している状況であり、教員は学生への個別的な指導がさらに求められている。	2.8	・専門学校の利点として、担任制を取っており教員からの働きかけで私生活の是正も試みることができるのが良いところだと思います。私生活の指導という部分も力を入れていってほしいと思います。また、実際に先輩方はどのように学習を進めているのか、学年を超えた学生同士での話し合いの場を設けるのも一つの手段かなと思いました。 ・教員も非常に忙しい中負担が大きいとは思うが、この取り組みは継続して行っていってほしい。
（３）模擬患者(SP)・実習モデルによるシミュレーション教育の推進	2.6	2.8	シミュレーション教育については、外部からの模擬患者(SP)を活用した学内演習が定着しており、学内であってもより実践的でリアルな演習を行うことができている。演習終了後は学生だけでなく模擬患者にも参加してもらって一緒にリフレクションを行い、学生たちにとって自らの看護を振り返る機会となっている。模擬患者の活用は、演習のなかでエラーを犯してもリスクがないため、自信を持って学び、実践することができるメリットも大きいと考える。模擬患者を活用した演習は３年目を迎え、演習シナリオの工夫や模擬患者との打ち合わせを密に行いながら、より学修効果の高いものを作り上げることができている。今後も本校の強みとして継続的に実施し、看護学生の臨床実践能力の向上に努める。	3.0	・模擬患者を活用してのシュミレーション学習をやっている学校は他にあまり聞かないので、北海道看護専門学校の特色としてこれからも力を入れていって欲しいと思いました。学生のうちから患者さんと関われる機会があることで、臨床に出てからのリアリティショックも軽減することができてとても良いと思いました。臨床実習では、疾患をメインで見ていくと思いますが、模擬患者を活用した演習では、車いすのトランスや患者さんとのコミュニケーションなど、意外と臨床で必要になってくる基礎の部分も学べると良いのかなとも思いました。 ・シミュレーション教育は非常に有効であると考えられ、今後もぜひ力を入れていってほしい。他の学校に先行して始めていることからノウハウの蓄積もあり、差別化の重要な項目と考えられる。
（４）グループ学修(各学年)における評価の充実	—	2.6	社会人学生が増加し、学修状況や生活体験など様々な面で学生間の差が広がってきており、多様化する学生たちがグループメンバー間での協力的な学修活動を通して、対話の重要性や自己の気づきを得ることができる共同学修として実施してきた。１年次では自分の将来像などへのキャリア支援としてポートフォリオを作成したが、２年次はグループ学修が形骸化してしまったのか単にグループで学修課題を仕上げるという表面的なものになっていたのではないかと考える。根本的なところからグループ学修のあり方について検討する必要がある。	2.8	・学生のうちから年の離れた社会人と話す機会があるのは、臨床に出てからもとても力になると思います。臨床ではカンファレンスや看護研究など他者とグループワークをする場面がたくさんあります。そのため、なぜ学生のうちからグループワークを行う必要があるのかという部分を伝えていけると良いのかなとも思います。
（５）ICT教育の推進・・・効果的な授業の工夫	—	2.5	コロナ禍の影響によりデジタル化の潮流が加速するなか、本校ではiPadを活用した電子教科書やzoom、マイクロソフトteamsなどを用いた授業を展開している。学生の中には「スマートフォンは使えるがPCは初心者」という学生も多くいるため、学生がICTを活用するためには、まずはPCやタブレットの取り扱いなどの知識が求められるため、情報科学の授業などでPC等の基本的な知識を学べるようにしている。また、授業を通して電子教科書の使い方などをレクチャーしながら進めることができている。ICTに不安を感じる学生には放課後などの時間を使って学修会を開催していった。	3.0	・紙媒体で授業や情報収集している、学校もある中、ITの活用が進んでいる。今後は、学校と職場の学習の進め方の相違をなくせるように検討できる場が欲しい。
（６）教職員の教育実践能力の向上					
(ア) 教員のキャリア目標と学生支援目標を持ち達成に取り組む	—	2.4	教員用のクリニカルラダーを使った目標管理の実施には至らなかったものの、教務部長との面談等により適宜対応はしていた。 また、担当科目数が一部の教員に集中しないように科目時間数等の調整を図りながら教育に携わることができた。	3.0	
(イ) 教職員研修の実施	2.2	2.2	教員研修については、年１回「ピアサポート講義」(オンライン）を教職員全体で実施した。教員個々では、国試対策の傾向と対策講座、シミュレーション教育研修、看護倫理研修などに参加したが、自己研鑽としての研修参加は少ないと考える。次年度より、教務会議などの時間を利用しながら、教員全体で受ける研修を計画し、実施していく予定である。	2.3	・教職員研修はかねてからの課題であるか、今年度も大きな改善はされていない。限られた時間の中で非常に難しいことはわかるが、教職員が自己研鑽を積むことは教育の質を向上させるためには必要不可欠なものであり、引き続き重点項目として検討実行していく必要がある。
（７）　教育行事などを通し、学生の主体性を尊重し豊かな人間性を涵養する					
・学年別の研修や教育行事には、必ず教員も参加し、自由な雰囲気の中にも教育的な要素があることを認識する。	—	2.6	学校行事である学校祭や学年交流会は、学生が主体的に行動できる機会である。体を動かすような活動は、教室では見られないような生き生きとした目の輝きを引き出し、学生の隠れた個性を見出す機会とも言える。しかし、最近の学生の中には参加に消極的で嫌がる学生も見かける。何事も経験してこそな教員は学生とともに行事に関わりながら、そうした機会を経験することで学ぶものが大きい。	3.0	・学年交流会は学生がとても楽しみにしている場です。また、そこでも絆が深まったりします。その場に先生方も参加してもらえることで、これからの学習がより良いものとなるような気がします。これからも続けていって欲しい。

B. 学修成果と学生支援の整備

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１） 看護師国家試験の既卒者を含めた受験者全員の合格を目指す	2.4	2.1	国家試験は、75名中、合格者61名と合格率81.3%という結果であった。内訳として、新卒者名71中58名合格で新卒合格率81.7%、既卒者名4中3名合格にて合格率75%となった。 国家試験担当教員が中心となって指導してきたが、過去の結果と比べても最も低い合格率であり、効果的な教育が不十分であったと言わざるを得ない。 国家試験対策では、学生が苦手とする科目を科目担当教員が特別講義を実施するなどして知識の定着に努めていたが、学修到達度の低い学生に対してのサポートが十分ではなかったと考える。国家試験対策については、教員全員が一丸となって強化していくことが重要であり、また、保証人等にも学修支援への協力を依頼し、学修に集中できる環境を調整してもらうように働きかけることも必要と考える。	2.0	・全国平均を下回った要因を分析し、来年度の合格率上昇に期待する。 ・工夫した取り組みがされているとは思うが、過去最低の結果であったことは重く受け止めざるを得ない。入学時点の応募者数の減少が根本にあると思われ、募集の方針も含め再考の余地があると考える。
(ア) 普段の成績と模擬試験の結果を把握し、支援が必要な学生を抽出する.	—	2.5	模擬試験の結果から支援を必要とする学生を抽出し、担任が中心となり個別指導を行った。８月頃より臨地実習の合間に実施した模擬試験の結果によって支援学生を４グループに分け、それぞれのグループに対して学修を進めた。また、模擬試験の結果によりサポートが必要な学生には自主学修の時間を設け、学修習慣を定着化できるように指導を行った。	2.8	
（イ）模擬試験結果の分析と共有	—	2.4	３年次に実施される模擬試験の結果（点数など）については教員間で共有はされていたものの、サポートが必要な学生への個別指導の際に模擬試験の解き直しなどの振り返りが不十分であったと考える。模擬試験内容をしっかりと振り返ること、学生へのフィードバックをしっかりと行うことが必要であった。	2.5	
（ウ）優先度を考えた学修支援（Dランク学生、上位と下位の間の学生等）	—	2.5	今回、学修支援が必要な学生28名のうち11名の学生が不合格となってしまったが、国家試験日までの学修スケジュールをこなせるように日常生活全般を含めた関わりも必要であった。学修習慣の定着化が不十分であったと考える。	2.8	
（エ）担任、国家試験担当教員を中心に教員全員が関わる姿勢	—	2.1	３年次では、担任や国家試験担当教員が学修指導を行い、それ以外の教員は授業や実習等で国家試験に関連する学修を実践していった。しかしながら、組織全体でそれぞれの支援方法について共有するなどの取り組みが不足していた。今後は教員全体で学生への支援方法を考えながら進めていく必要がある。	2.3	・学習支援が必要な学生が増え、教員だけでサポートできる容量はあるのか、新たな視点で検討することを期待する。 ・各教員も時間が限られている中で学生支援をしていくためには、効率よく情報共有することが必要と考える。様々なツールを活用して進めていってほしい。 ・普段の授業の中でも、国家試験を意識した授業ができると合格率に繋がると思う。
（オ）学生が主体的に国家試験学習に取り組めるようなクラス作り	—	2.1	「国家試験　全員合格」を目標に、学生同士が共に学び合いながら国家試験勉強に臨むことができるよう、クラス全体が前向きな姿勢で取り組めるクラス作りが重要と考え、担任が中心となり進めていたが、主体的に取り組めるまでには至らなかった。日常的に心理的安全が保たれるような関わりが必要と考える。	2.5	・クラス全体で国家試験に向けて取り組む雰囲気作りは非常に重要と考える。担任の教員に任せざるを得ない部分ではあるが、是非主体的に取り組んでいってほしい。 ・学生同士の団結力が合格率に直結するのかなと思います。コロナ渦で一人で学習するのはとても辛かったので、国家試験100%合格に向けて、クラス全体の士気をあげられるような取り組みがあればいいなとも思います。そうすることで学生同士の助け合いが生まれるのかなと思います。学年交流会はクラスの絆が深まるいい機会だと思います。
（カ）既卒生の生活状況の把握とそれに合わせた学修スケジュールの相談、共有	—	2.5	既卒生にとっては働きながら学修をすすめていくことでの困難さなど、生活環境が大きく変わるため早い時期より勉強方法や学修スケジュール、体調管理などを相談しながら学修を進めていった。学校に頻回に通うことができない既卒生も、定期的に連絡をとりながら近況についての把握と学修の進捗度を確認しながら関わることができた。次年度は13名と人数も多いが、例年通り連絡をとりながら関わるようにしていく予定である。	2.5	・既卒性に関しては関わり方も限定的にならざるを得ないが、引き続き取り組みを進めてほしい。
（２） 退学率の低減を図る	2.2	2.2	令和５年度の退学者数は７名であった。学生一人ひとりの動向を細かく把握し、担任を中心に学生や必要に応じ保護者との面談を行うなど問題解決に向けたサポートを行っていたが、進路変更や学業不振により学業の継続を断念したり、看護師への思いを失ったことで欠席が常態化し、結果的に複数の学生が休学や退学となった。学生が学業を継続していくためには、日々の勉強や実習で生じる様々な困難状況を受け入れ、乗り越えていくために心身の健康が重要である。教員は、学生の学修状況だけでなく、身体状況にも目を向け必要に応じて指導を行う必要がある。評価が低いのは、サポートすべき学生が多いこと、退学理由などの教員への説明不足を指摘する声による。	2.3	・一定割合の退学者は避けれないと考える。入学時点で本人の適性を見極めることは本人にとっても学校にとっても難しいので、退学させない努力は必要ではあるが、あまりここに注力しすぎるのも問題があると思う。 ・学生の私生活まで関われるのが担任制のいいところだと思います。もっとそこを活用していってほしい。看護の良さをもっと伝えていけると良いのかなとも思う。
（３） 学生への就職支援サポートの強化を図る					
(ア) 学年ごとへの就職支援の実施	2.7	2.9	３年間を通して、キャリア支援に関する授業や校内病院説明会を実施している。社会人としての姿勢を学びながら、「看護師になる」という気持ちを支え、学生自身がキャリアプランを描けるような段階的な支援を行うことができている。１年次は、看護師の仕事を知ることから３年間の就職活動スケジュールや心構えを伝え、２年次では自己分析、校内病院説明会の実施、履歴書、小論文の書き方を学び、３年次では模擬面接をはじめ就職サポートを実施している。	3.0	
(イ) 校内就職説明会等の実施		2.8	就職支援の一環として２年生を対象とした校内病院説明会を開催し、今年度は実習施設の16病院を招いた。ブース形式の説明会では学生が病院それぞれの特色や札幌市内の病院と市外の病院の違いなどを知り、自身が思い描く看護師についてより深く考えることが出来る機会となった。次年度も継続して実施していきたいと考える。	3.0	
（４） 学生への経済的支援の充実を図る					
・修学支援法をはじめ、教育訓練給付金制度などの支援制度の周知、案内および申請のサポートを通し同学生への経済的支援を行う	2.8	2.8	修学支援法については、令和５年度においても文部科学省より修学支援法の対象校として継続して認可を取得した。学生には適宜適切に案内・説明会を行い保証人等からの相談にも対応し、新たに23名が支援対象者に認定され、令和5年度は全体で52名が対象者となった。 また、日本学生支援機構奨学金の利用者は133名、社会人学生にとって大きな支援となる教育訓練給付金（専門実践教育訓練）の利用者は42名、その他自治体による奨学金制度の利用者は26名と、在校生の約７割がこれらの支援を受けながら看護師を目指している。 これらの支援が滞りなく継続されるよう引き続き適切に対応し支援にあたる。	3.0	

C. 学校運営と入学生の定員確保

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）入学者の８０名確保と本校のブランディングの強化					
(ア) ホームページ上の学校情報のタイムリーな発信	2.6	2.8	ホームページ（ＨＰ）上への学校情報の発信は、担当者を決め必要な情報の発信を行っている。令和５年度はホームページもリニューアルし、学生がアクセスしやすいレイアウトになっている。	3.0	
(イ) 入試説明会・オープンキャンパスの充実	2.7	2.8	参加しやすい様にと７月から９月までほぼ毎週土曜に開催していたが、参加者総数は例年と変わらず、参加者が各回に分散してしまい０名の回や数名となった回もあった。しかしこのことについては試さなければ知りえないことであった為、改めて《高校の行事に重なっていないか》、《参加者は何を求めているのか》など、例年通り参加者ファーストで日程等を決めていく必要があると確認できた。在校生とのフリートークについては、入学前にどの様な不安を持っていたのか、入学して良かったと思えることは何かなど《参加者が今知りたいこと》について、参加者に最も近い在校生がしっかりと受け答えしており、また過去問題を配布しての入試説明についても大変好評であり、概ね充実していたと評価できる。	3.0	・卒業生や在校生との関りを持てるオープンキャンパスはとても良い取り組みと思います。これからも続けていくとともに、もっと高校生の目を引けるような取り組みも考えて実践していってほしい。
(ウ) 高等学校の訪問の充実（市内および札幌近郊）	2.5	2.8	札幌市内の高校へ新卒学生や在校生の状況報告を兼ねながら訪問し、学校の特色を説明し周知に務めた。また、高校主催の説明会があった１校、地方の実習施設訪問時に近郊の数校の高校訪問、この他高校推薦入学に対し推薦があった高校への入試結果報告を兼ねた訪問を行った。高校が必要とする情報の精査や訪問のあり方の検証を行い、継続的な高校訪問を実施し、高校との信頼関係を構築し、優秀な学生の確保を図る必要がある。	3.0	・自分が高校生の時は、正直、北海道看護専門学校がどのような学校なのか上手く伝わってなかった部分もあります。そのため、何を強みにしていているのかなど、もっと高校生が入学したいと思えるように各高校にアピールしていっても良いのかなと思う。
(エ) 高等学校への出前授業の実施および中学生へのふれあい看護体験の実施	—	2.7	北海道専修学校各種学校連合会からの依頼として、今年度より中学生の職業体験講座を実施し、道内各地28校の中学校より154名の受け入れを行った。札幌市外の中学生の殆どは看護師や医療職に興味のある生徒であった。初めての受け入れということもあり、できるだけ多くの依頼を受けたが、看護体験や模擬授業を通して看護師という職業を理解してもらうことができたと考える。看護師不足と言われる現状のなかで、地域への貢献と本校の認知度は高まったと考える。次年度以降は計画性をもって受け入れていく予定である。	3.0	
（２）学校経営への参画					
(ア) 業務効率による時間外労働の短縮	—	2.2	繁忙期などにより時期によってばらつきはあるが、１ヶ月の時間外労働時間が40時間を超えているものもいる。業務改善として取り組んだことは、事務との業務分担などを図り、教員の業務負担軽減に努めた。しかし、学生の生活指導、相談、学修支援、無断欠席の学生への連絡、補習や追実習の調整等に時間を要し、所定就業時間内に講義準備の時間確保ができないと思っている教員が少なくない。授業評価分析等の時間確保とともに業務改善が必要と考える。	2.0	・学校に限らず、その職種においても人で不足は深刻であり、労働時間をいかに減らしていくかは重要な課題である。生成AIの登場により様々な分野で驚くような機能を持ったツールが開発され、安価で提供されているので、この部分の研究もぜひ進めてほしい。機械ができることは機械に任せることが求められる。 ・教員による時間外の偏りを無くす必要がある。
(イ) 専門領域ごとの備品の共用を図り、重複購入等を避け無駄な支出を削減する	—	2.5	各領域ごとに使用する備品や消耗品などが重複していることから余剰在庫となっているものもあるため、各領域で使用するものを全体共有し、適正化を図った。また、学生の教科書等実費負担項目についても見直し検討を図り、学生の実費負担の軽減を図った。	2.8	

Ⅱ　学校評価ガイドラインに基づく評価項目に対する自己点検・評価

１：教育理念・目的・人材育成像

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	2.8	2.8	本校では、看護師を養成する施設としての理念、目的、目標を定め、育成人材像を明確にしており、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。	3.0	
（２）学校における職業教育の特色が表われているか	2.7	2.7	理念、目的において、目指すべき看護専門職者としての在り様を明記し、目標において指標となるべき事項につき、具体的に６つの項目に分けて標記している。	3.0	
（３）教育理念・目的・人材育成像は社会のニーズに合っているか	2.7	2.7	厚労省によるカリキュラム改正に合わせ、令和４年度に改正を行った際、学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、教育理念に国際化の視点を盛り込むなど、社会のニーズを反映した内容としている。	3.0	
（４）学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	2.6	2.7	理念、目的、目標、特色については、学校ホームページや学校案内、シラバスに明記している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、学生便覧を使用し周知している。また保証人等に対しては、保証人等懇談会開催時に説明を行っている。	3.0	

２：学校運営

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	2.5	2.7	目的・目標に向けて、毎年運営方針を決定し、それに基づき事業計画も理事会の承認を経て策定されている。	2.3	
（２）運営組織や意思決定機能は有効に機能しているか	2.5	2.5	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として学校運営会議を置いており、意思決定機能は有効に機能している。また、教員による教務会議を月２回開催、および部門ごとの連絡会を随時開催することにより、情報の共有化を図っている。	3.0	
（３）人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.4	2.7	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。今年度、指認証による勤怠管理システムを導入したことにより、新たに時間外勤務細則を設け、その一層の適正化をを図った。課題としている「人事考課制度」の導入に向け、既に導入している連携校の手法のスタディ等を行い、次年度中の導入を目指している。	2.8	
（４）教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.7	2.7	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っている。文科省による職業実践専門課程の認定維持に必要とされる各種の情報公開事項をホームページ等を利用して適切に公開している。また、オープンキャンパスや入試説明会においては、より詳細に説明を加え情報公開を行っている。	3.0	
（５）情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.5	2.5	令和２年度より「学生管理システム」を導入し、その後継続的に必要な機能を付加し業務の効率化を図っている。今年度は、指認証による勤怠管理システムを導入し、業務の効率化と正確性の向上を図った。情報システム化による業務効率化は、教育の質と組み合わせて継続的に図る必要がある。今後はAIに関する機能等もスタディし必要に応じ導入を図る必要がある。	2.8	

３：教育活動　　評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（目標の設定等）					
（１）教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.6	2.7	令和４年度からの厚労省のカリキュラム改正に合わせ、教育課程編成委員会の議論等を加味し、教育理念から見直しこれに沿った教育課程の編成を行った。実施方針等は、毎年度明示されている。	3.0	
（２）各学年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.7	2.7	学年別到達目標を明確に示している。またカリキュラム上の学習時間も法令で求められている時間数を上回っており学習時間は確保されている。到達レベルについては、学生の特性も変化していることから今後見直しが必要であり、今後の課題と捉えている。	3.0	
（教育方法・評価等）					
（３）学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.7	2.8	令和４年度から新カリキュラムとなり、法令に基づき基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分け、各分野とも密接に繋がり、体系的に編成されている。新カリキュラムの運用をとおし、継続的に細部について科目間の調整が必要と考えている。	3.0	
（４）キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.6	2.6	看護学校のカリキュラムは厚労省により細部にわたり規定され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム構成が求められており、本校はこれを実践している。キャリア教育については、令和４年度からの新しいカリキュラムに、コミュニケーションカや看護倫理意識の向上を図る科目を新たに設けるなどした。この他、高校を卒業して間もない若い世代が多い事から、医療人としての心構 え等を育成出来るような教育も一部実施している。やや評価が低いのは、新カリキュラムが2年目であり試行錯誤の段階で工夫・開発まで至っていないとの意見による。教育方法の工夫や開発に関しては、昨年度から、新たに外部人材による「模擬患者」や「ゲストスピーカー」を招いた演習や講義の実施を行い、学生の学修力向上を図っている。今後も教育課程編成委員会の運用などをとおし、有意義な講義カリキュラムの設定や教育方法の工夫・開発に継続的に努める必要があると考えている。合わせて、実施した内容についての検証・評価を行う必要があると考えている。	3.0	・実際に、学生と年齢の近い卒業生をゲストスピーカーとして招いて、臨床に出てから困ったことや辛かったこと、リアリティショックを受けたことなど先輩からの意見を聞いておくことで、臨床に出てから大きなリアリティショックを受けずに済むと思いう。
（５）関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの見直し等が行われているか。	2.6	2.7	関連分野の団体、病院の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し各委員による意見を反映できる体制としている。令和４年度からの厚労省によるカリキュラム改正に合わせ新カリキュラムの実施が２年目であり試行錯誤の段階であり見直し等は行っていない。	3.0	
（６）関連分野における実践的な職業教育（実技・実習等）がカリキュラムに組込まれているか	2.7	2.9	病院を中心とした臨地実習を合計で23単位行い、実践的な職業教育を行っている。	3.0	
（７）授業評価の実施・評価体制はあるか	2.7	2.8	科目の最終授業後に、学生にアンケート調査を実施し、授業評価を行っている。調査内容を基に授業の改善を図っている。学生からのアンケートの回収は教員からの声掛けを行うなどしているが、未だ回収率が低く、これに起因し評価に対し懐疑的な意見も一部にあり今後の課題と捉えている。	3.0	・アンケートが手書きだと、文字のくせで誰が書いたか分かるからあえて意見は書かないという学生が自分たちの時は居た。アンケートを電子化するなどの対策を取っていけるともっと学生から意見が集まるのかなと思う。
（８）職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.8	2.7	実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけでなく、学校関係者評価委員を組織し、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みを構築している。学校評価を実施するなかで、外部評価の結果を教職員間で共有し、学校全体として組織・運営の改善を図る体制を整えている。	3.0	
（９）成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.7	2.8	これらは「成績評価、単位の認定及び卒業に関する規程」に明記されており規程を遵守している。	3.0	

（資格試験）					
（１０）国家資格取得に関する指導体制を体系的に位置づけているか	2.7	2.6	国家試験対策担当の教員を配置し、各学年計画的に模擬試験等の対策内容を策定し実施している。また、各学年の学修状況に応じて、クラス担任を中心に各種学力向上策を実施する体制を整えている。課題としては、個々の学生の状況に対応したより細やかな個別対応が必要となっている点があげられる。やや評価が低いのは、国家試験合格率が全国平均を下回った結果を受け、指導体制の見直しの必要性を求める意見による。	3.0	
（教職員）					
（１１）教育理念・目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.4	2.8	専任教員、非常勤講師ともに要件を備えた教員を必要数確保している。 特に専任の教員数は、道内屈指の数を確保している。実習インストラクターについても優秀な人材の固定化が近年図られている。	2.8	・実習インストラクターとトラブルがあったなど、インストラクターに対しての不満や実習のやりにくさを感じている学生もいました。そういった現場のリアルな意見も聴取できると良いのかなと思う。
（１２）関連分野における業界連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等の取組みが行われているか	2.5	2.7	第一線で活躍している医師・看護師をはじめ、大学等から優れた講師を招き本校の教育に協力をいただいている。専門基礎分野の一部の科目において、複数の講師による授業の分担が余儀なくされている現状があり、今後の課題となっている。	2.8	
（１３）関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.4	2.5	教員研修規程を設け、研修の参加費用の助成等を行っている。COVID-19感染症を発端にオンラインでの研修会が常態化しつつあり、経費的にも時間的にも受講しやすい環境となっている。必要と判断した研修には、「業務」として参加をしてもらうなど教員に求められる能力等を高める為の環境を整えている。しかしながら平日は授業や臨地実習先への引率等の通常業務があり、研修に参加する場合は休日または通常業務の合間となる事も多く、時間の確保が課題となっている。教員の教育力の向上は学校経営にとって重要課題であり、計画的な研修の立案を含め積極的にサポートする必要がある。一定時間の研修を義務化するなどの仕組作りも必要であり、今後の重要課題として位置付ける必要がある。学内研修として、今年度は、教職員向けに「学生同士で互いに助け合う手法」（ピアサポート）についての研修を行った。	2.8	・研修時間の確保は以前から課題として挙げられているものの、ほとんど改善されていない。研修の義務化は実施すべきと考える。
（１４）職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.2	2.4	事務職員に関しても日常業務との兼ね合いで時間的な制約が大きく、外部主催の研修会への参加は無かった。事務職員の能力向上も重要課題であることからリモート研修等の情報をキャッチし、積極的に研修を実施する必要がある。	2.5	・事務職員に関しても研修を義務化して実施することが望まれる。

４：学修成果

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）就職率の向上が図られているか	2.7	2.7	求人情報の公開はもとより就職ガイダンスの開催等、就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来１００％である。	3.0	・面接練習など就職活動にあたって、先生方が親身に寄り添ってくれた経験が僕はあるので、これからも続けて行ってほしい。
（２）卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.2	2.4	卒業時に実習先に就職した学生については、教員が近況や評価を聞くことがあるが、積極的・定期的には実施してはいない。それ以外の卒業生についても動向を把握しきれていない。学校からのアンケート調査や同窓会等を通じて、卒業生の勤務状況等を把握する必要がある。　卒業生にとっては、教員からの連絡等は励みにもなりアンケート調査等は貴重な情報源になり得る。また、卒業生の活躍の状況は学生募集の際のPRに繋がる事から今年度１０期卒業生を輩出したのを期に次年度以降確実に取組む必要がある。	2.5	・卒業後、お世話になった先生方と関りを持ち、辛いことや楽しいことなど思いを共有できる場があることで明日からの自分の励みになると自分はとても感じてた。そのため、卒業生へのフォローアップも行えることで離職率の軽減に繋がるのではないか思う。
（３）卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.3	2.4	組織的に卒業後のキャリア形成への効果の把握を行ってはいない。実習先に就職した学生等、状況が把握しやすい卒業生へのヒヤリング等を行っているのが実情である。今後はアンケート調査の定例化や同窓会の開催をサポートして情報を収集し、教育課程編成委員会への諮問等を通し教育活動の改善を図る必要がある。	2.8	

５：学生支援

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）学生相談に関する体制は整備されているか	2.5	2.3	主に各クラス担任が学生相談の窓口となり、必要に応じて役職教員も加わり対応している。教員だけではなく事務部門においても奨学金サポートによる学生との接点を活かし、相談窓口となって対応している。　専門性の高いカウンセラーの必要性については、学生へのアンケート調査を実施する中で、有効性に疑問が残る結果となったことから、配置を見送っているが、このことが低い評価に繋がった。アンケート調査の結果より、ピアサポートの手法の導入を図る必要があると考えている	2.5	・カウンセラーについては、健常な状態でアンケートを受けても必要と回答する者はいない。アンケートの結果で必要性を判断判断するのではなく、不調を来したときに相談できる窓口が用意してあるということが重要だと考える。準備したのに利用者がいないということは、むしろ好ましいことである。設置の方法には工夫が必要だと思うが、学生の健康を守るためにもぜひ設置する方向で検討していただきたい。
（２）学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8	2.8	文部科学省による「修学支援新制度」の対象校の継続認定と合わせ、担当者を配置し学生の支援を行っている。また、日本学生支援機構の奨学金、その他各種奨学金の案内や助言およびサポートも行っている。さらに、社会人に対しては、専門実践教育訓練給付金制度の認定校として該当者に対し支援を行っている。加えて、学生の家計事情によっては納付金の分割も認めサポートしている。この他、学校独自の奨学金給付規程に基づいた支援を行っている。	3.0	
（３）学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	2.7	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理担当教員を中心に健康管理への指導、健康相談等を行っている。　学校医が不在となっているため、人材の確保を進める必要がある。	3.0	
（４）学友会が円滑に活動するための支援体制がある。	2.8	2.7	共用ではあるが学友会用に部屋を提供するなど、学友会が自発的に行動し易い環境を整えている。また、学友会担当の教員２名を選任し、学生支援室と共に、学友会活動のサポートを行っている。　コロナ禍により学友会活動が３年間事実上停止状態であったことから、学友会運営のノウハウ等が学生間および教職員間で継承されず、その分担当教職員への負担が過大となった。学校行事における学友会活動の意義、教育的係わりについて意識の確認が必要と考えている。	2.8	
（５）保証人等と適切に連携しているか	2.7	2.6	各学年の保証人等懇談会・個別相談会を開催し、連携に努めた。この他必要に応じてクラス担任が中心となり個別に面談や電話による相談、発信を行っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差など、多様性が広がる状況において、保証人等との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であり、最近の保証人等と学生の傾向を考えると、よりタイムリーな連携を図り家庭と学校で協力して学生をサポートする必要があると考えている。	2.8	
（６）卒業生への支援体制はあるか	2.4	2.5	卒業生から要望があった場合には、担任であった教員が中心となって個別に対応支援をしっかりと行っている。また、同窓会を通し卒業生に対し学校として支援する意思があることも伝えている。　国家試験不合格者への支援体制は整えていたが、既卒者５名の内３名合格、１名不合格、１名当日欠席という結果となった。支援方法について体制も含め今後も検証が必要と考えている。	2.8	
（７）社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.4	2.6	入試方法に社会人入学を設け、入学しやすい環境を整えている。また、既修得単位認定制度を設け、時間の負担軽減を図っている。修学資金についても、専門実践教育訓練給付金制度認定校の維持および札幌市ひとり親家庭自立支援給付金（親側の学びの支援）利用者へのサポート等を行っている。臨地実習の実習先選定についても要望に叶うよう出来る限り配慮するなどしている。やや評価が低いのは、ICTに不慣れな社会人に対する教育・サポートが不足しているとの指摘があったことによる。	2.8	

６：教育環境

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）施設設備・教材教具・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.5	2.4	学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。やや評価が低いのは、図書室の蔵書の数、質に対する評価である。蔵書に関しては日々進歩する医療についてより新たな情報等を学ぶためにも、最新の専門書の購入を進めて行く必要がある。教具を含めた設備・備品面においても、教育の質向上に資するものを計画的に整備・購入し充実させて行く必要がある。	2.8	・自分が学生の時には、図書室を利用することがあまりありませんでした。書籍の活用方法など具体的な部分を説明してあげられるともっと学生が活用してくれるのかなと思います。ITの時代なので、これからもっと本離れをする学生が増えてくると思う。そういった中での図書室の在り方をもう一度考えるのも良いのかなと思う。
（２）学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	2.7	2.7	臨地実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。実習施設が多岐多数にわたるため情報共有・連携の均一性に差が見受けられるのが課題となっている。今後は、COVID-19感染症問題により開催を見送っている実習指導者会議等の実施などを通し、この差をできる限り少なくする努力を継続的に行う必要がある。	3.0	
（３）防災に対する体制は整備されているか	2.9	2.8	施設設備は十分に整備しており、定期的に消防設備点検（年２回）を行っている。防火管理者の指導のもと、全学年参加の消防避難訓練を５月に行った。また、同日１年生を対象に、火災時の留意事項について講習を行った。災害時に学生・教職員の安否確認を確実迅速に行える安否情報システムを導入しており、定期的にその使用訓練を行い稼働状況を確認・指導を行っている。防災用品の備蓄として今年度も予算化し必要品を購入した。今後も計画的に備蓄品の整備・更新を行う考えである	3.0	

７：学生募集

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）高等学校に対する情報提供が行われているか	2.8	2.8	学校ホームページにて各種情報の提供を適宜行っている。「公開情報」として文科省による職業実践専門課程の認定および維持に必要とされる情報を公開している。　高校訪問を実施する中では、本校の在校生及び新卒生についての状況報告はもとより、高校が求める情報の把握に努め、適切な情報の提供を継続的に行う必要がある。　大学志向が強い状況から、専門学校の良い点の広報は極めて重要と考えてる。　今年度は、学校ホームページを、スマートフォンによる閲覧に適する形に全面リニューアルし、より学校の特色等が見やすい内容とした。	3.0	
（２）学生募集活動は、適性に行われているか	2.8	2.8	文部科学省・入学者選抜実施要項に基づき、学生募集活動は適性に行っている。	3.0	
（３）学生募集活動において、国家資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.8	2.9	学校案内等において最新の情報を記載し、またホームページ上で公表している。これら以外にも高校訪問、入試説明会、オープンキャンパス、個別相談会等で伝えている。	3.0	
（４）多様な選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.8	2.9	北海道の地域医療に貢献できる看護師の育成を特色としており、選抜方法に本校独自の地域指定推薦制度を、また社会人のニーズにも対応できる様、社会人入学も設けている。一般入学については、前期日程、後期日程と時期をずらした選抜方法を設定している。高校新卒者の入学者減少傾向を鑑み、優秀な高校生の確保の観点から、指定校推薦制度および高校推薦制度も導入している。　今年度は、より多くの人が受験しやすい環境とすべく、一般入学試験の科目について見直しを行い、従来の３科目必須から、国語を必須とし英語、数学の２科目から１科目を選択とする制度に変更した。今後は、この方式の評価の検証が課題である。	3.0	
（５）入学選考は、適性かつ公正な基準に基づき行われているか	2.8	2.6	学科試験問題の作成および管理は厳正に行われており、合否については、本校の定める入学試験面接評価基準および合否判定基準に基づき合否判定会議にて適性かつ公正に行っている。昨年より評価が低いのは、学生の応募状況から例年より入学試験の合否ボーダーの相対的な低下が影響していると思われる。	3.0	
（６）学納金及び教科書代等の実費に係る負担金等は、妥当なものとなっているか	2.6	2.6	学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や臨地実習経費等を鑑みて、適切な金額設定としている。教科書代等の実費負担金等についても、その必要性を吟味し、各協力業者からの見積金額を精査の上、業者決定金額を直に学生負担金としており、妥当なものとなっている。ただ、金額的に年々上昇しており、学生の負担が大きくなっていることから、内容の一層の吟味が必要と考えている。	2.8	・金額面はこれから入学を考えている高校生にとって大きな問題になってきます。毎年、毎年適切な金額か見直しをしていくことが必要かと思う。

８：財務

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	2.6	近年の経営状況から、財政基盤の安定化が図られている。今年度の決算も、予算より黒字幅が大きくなっている。今後とも入学者の確保と適切な支出管理を行い、学園の財務基盤の安定化に貢献する考えである。昨年より評価が低いのは、今年度の入学者が、看護師志望者の大幅な減少により、定員の95%に留まったことが影響したものと思われる。	3.0	
（２）予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.8	2.9	予算・収支計画については、学生の在籍状況から算出される収入と例年の支出状況を基に立案し、理事会、評議員会で審議され、作成している。　その立案に当たっては、学校の特色の維持と、教育の質の向上に資するものを目指し作成している。	3.0	
（３）財務について会計監査が適正に行われているか	2.9	2.9	会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。	3.0	
（４）財務情報公開の体制整備はできているか	2.9	3.0	学園の財務情報公開体制は整備され、財務情報は公開されている。学校単体については、現状公開されていないが、教職員に対しては学校の収支状況を説明している。	3.0	

９：法令等の遵守

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.8	2.8	専修学校設置基準、看護師学校養成所指定規則、看護師養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営を行っている。	3.0	
（２）個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.8	2.8	学園として個人情報の取扱いに関する規程を整備し、その保護の対策が取られている。また、日頃から注意喚起を行いその保護に努めている。学生に対しては情報倫理に関する規程を設け学生便覧にも記載している。この他臨地実習要綱書においても個人情報の保護に関し細かく明文化しその保護の徹底を図っている。　具体的な施策としては、学生が臨地実習などで使用するUSBにはパスワードを設定し、紛失時の個人情報の保護、漏洩防止に当たっている。また、Net回線を学生用と教職員用で分離し校内サーバーへのアクセスを完全に遮断し保護している。今年度においても、個人情報に関する事故は生じていない。	3.0	・情報セキュリティの問題も含め、この分野の研修も重要と考える。例えばIPA（独立行政法人情報処理推進機構）が提供する動画や講師を招いての研修等、コストをかけないで出来ることもあるので、ぜひ検討されたい。
（３）自己点検・評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	2.7	2.8	自己点検・評価を実施し、それを基に学校関係者評価委員会を開催し、それぞれ学校自己点検評価結果および学校関係者評価委員会報告書として学校ホームページ上に公表している。自己点検と合わせ外部の委員の意見を採り入れ問題点の把握と改善に努めている。評価項目について学校関係者評価委員会委員等の意見を参考に、適宜見直しを行う必要がある。	3.0	

１０：社会貢献・地域貢献

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価基準　３段階　３:適切　２:やや適切　１:不適切

評価項目	前年度評価（平均）	評価（平均）	評価の概要と今後の課題	学校関係者評価委員評価（平均）	学校関係者評価委員の意見等
（１）学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.5	2.5	外部からの要望により、学校施設や教材の貸し出しを行っているが、積極的には告知活動はしていない。今年度の実績は、昨年度に続き看護協会の研修場所として施設の一部を提供した。また、実習先施設からの要望により蘇生人形などのシミュレーターを貸し出した実績がある。今後も要望・要請があれば対応する方針である。評価がやや低いのは、「受け身」の方針への理解度が低いことによるものと考える。	2.5	・実習施設へは、積極的なPRを求める。
（２）地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を実施しているか	2.5	2.5	公開講座・教育訓練の受託については、マンパワーの問題や、安全面を指摘した学校関係者評価委員会の意見もあり、積極的には実施はしていない。要望があれば検討し受託するという方針としている。	2.8	